

令和6年度第3回 田辺市障害者施策推進協議会 会議録

日 時 令和7年2月20日 木曜日 午後1時30分～午後3時

場 所 田辺市役所 1階 多目的ホール

出席委員 22名

欠席委員 5名

事務局 障害福祉室 新田室長、栗山参事、玉田係長、山田主査

説明員 委託事業者2名

会議事項

1 開会

2 議題

(1) 田辺市第2期自殺対策計画(案)について

ア. 第2回推進協議会以後の変更内容について

イ. 自殺対策プロファイルの更新に伴う変更点について

(2) 計画案の承認について

(3) その他

令和6年度第3回田辺市障害者施策推進協議会(以下、「協議会」という。)の次第に沿い、新田室長の司会により開会、協議会条例の規定により会議の進行は会長が務める旨を案内し、進行が大久保会長に移った。

大久保会長の促しにより、玉田係長から委員の出欠について、現時点で22名の委員が出席しているとの報告があり、過半数の出席により会議が成立していることが確認された。

議題に移り、(1) 田辺市第2期自殺対策計画(案)についてのア. 第2回推進協議会以後の変更内容について及びイ. 自殺対策プロファイルの更新に伴う変更点について山田主査から説明したところ次の質疑応答があった。

●A委員

自殺者の総数として死亡率が出ていますが、できれば年代別で推移をみたいと思っています。年代別では、現況しか出ていないので、その年次推移です。国の統計では若年層の自殺死亡率が上昇しているという報道もありましたので。次の機会で結構ですのでよろしくをお願いします。

●B委員

(自殺者を)ゼロにする、ということを経最大の目標にした形で文章が展開されてる部分があるんで、これでいいんじゃないかなと思っています。なかなかそれが、収まらない状況ではありますが、あくまでゼロと考えたことによって、すべきことがはっきりするんじゃないかなと思って、田辺市としては、そういうふうにして欲しいかなと思っておりました。

●C委員

これでいいと思います。特に意見はありません。

●会長

直近の5年間について平均値で捉えたときには、減少傾向となるのですが、実体としては令和5年に増加しているのです。こここのところの、何というか、ギャップというか、5年間の平均値としては確かに減っているけど令和5年が伸びていると、これは伸びる方向なのか、減少傾向に向かうのかという問題をどのように判断するのか。平均値では確かに下がった、でも現実これがどう動くのか。

○事務局

非常に難しいご質問であると思います。自殺者数は、平成21年から数字を取っていますが、長期的に見たときに、21年27人、22年28人で23年に15人と減り、その後横ばいから若干増加傾向で、28、29、30年が20人で、令和になって14、14、13、14人となり、令和5年で23人です。この先どうなるかというのは、判断し難く何とも申し上げられません。

●会長

そこで、平均値においてですが、「減少傾向になっている」というような表現は止めておいたほうがいいのではないかと思います。6年度の状況が、途中経過ですが、どんな状態なのかわからない、下がっているのなら減少傾向でいいと思いますが、仮に20人前後という様相を呈しているのなら、増加傾向かということもあるので。減少とまで表現するのはどうかという気持ちもあります。

○事務局

表現上、総じて減少傾向とは書かず、21年以降増減しながら減少傾向にありましたが、令和4年から5年にかけて一転増加していますと、4年から5年にかけて増加したということは説明しています。ずっと減少傾向が続いているという表現にはなっていません。ただ、5年間の平均を用いているだけで、減少傾向ということ結論づけた表現にはなっていません。

●会長

減少しつつあったけども、直近では増加しているという表現ですね。わかりました。

○事務局

令和5年の数字が出まして、事務局も危惧しております。令和5年5月8日だったかと思いますが、コロナの分類が2類から5類に変わりまして、社会生活が徐々に元通りに戻ってきました。普通に戻ってきたことが、この増と繋がってしまったのかどうなのか、或いは、先ほど言われた6年の数字もまだ、きちんと見た上でということをご指摘いただいたので、計画ができた後、令和6年の数字も発表されるかと思うので、注視していきたいと思っております。

●D委員

今の数字の件についてはもう、意見をいただいたので、特にございませぬ。前回、水際だけではなく、それ以前の対策もあればという話をさせていただきました。水際対策も中心的になることはいいと思っております。ただ、やはり精神保健の観点から、そこに至るまでに

もっと何か、ポジティブなメッセージを出せないかということも担当と話し合っております。具体的になかなか出てこなかったんですが、1つの例としまして、今回反映して欲しいということではないんですが、ウェルビーイングという概念が、今取り上げられています。心身ともに健康であるということなんですが、健康であるということだけではなく、社会的な繋がりを持った上で、非常によい状態であるという概念になります。個人だけではなく、社会と繋がっていることは幸せというふうな、概念を向上させていくことができれば自殺対策にも繋がっていくのかなと感じています。そういう概念を、例えば教育の場で取り入れていただければと思います。国でも、文科省でも取り上げてはいますが、具体的には反映はされていないと思うんですが、若い世代のころから考え方を取り入れ、それから社会においても、会社においても、経営の感覚の中でもウェルビーイングの考え方を取り入れていくことが自殺対策に繋がるというふうなことも。また次の段階でもいいと思うので、具体的な事業として進めていただけたらと思います。

●E委員

田辺市の教育委員会が、医師と協力して中学生に、思春期検診という、タブレットを使ったアンケートを取って、その結果によって、心に課題を抱えているような生徒には、保護者を含め検診を勧め、同意を得た上で受診しながら心の問題を解決していくという取り組みをしています。私も、もうかなり教職にありますが、以前はそういうことは全くなかったもので、田辺市も学校教育に予算をつけ、いろんなことをしながら子供たちを見守っていただいていることを、すごくありがたく思っております。

●F委員

中学校とか高校の保健などで、人間関係のことなんか、項目としてあるんでしょうか。田辺市独自でもいいんですが。

●E委員

命を大切にすることについては、道徳、それから保健など、今の教科書はすごくよくできていて、例えば家庭科の教科書にも、いのちを大切にすること、そのためには、自立して食生活を改善するというように、様々な教科の中で、いのちの大切さを扱った項目を書いていて、道徳だけではなく、家庭、英語であっても、いのちに関する教材が必ず入っています。

●F委員

中学校、高校時分に、専門家の方を招いて生徒に対してお話をするとか、そういうことも大事じゃないかなと思うんです。そして人間関係、友達であるとか職場へ入ってからとか、コミュニケーションだとか、今の子供さんはゲームなんかでよく遊びますけれども、実際に外で遊んでいることが昔に比べてうんと減ったんですけど、そういう遊びの中で培われるものって大きいと思うんですけども。そういう小さい時分、大人になる前に、そういう人間関係の築き方、すごく大事だと私は思います。それとこのグラフで、実際に自殺者が多いときと少ないときの原因というのはどういうものなのでしょう。滑らかな曲線を描いていますが、高いときと低いとき、これは何か社会的な要因もあるのか。仕事の関係とかそういうこともあるかもわかりませんが、そこをもうちょっと突き詰めるとかそういうこともひとつの対策じゃないかと思えます。

○事務局

近年の社会で大きな影響というのはやはりコロナかなと思います。令和5年ということで、感染症法の位置付けが変わり、人の流れというか、こうして一堂に会しての会議もができるようになってきました。そういった人の動きが大きくなったことの影響が、自殺者の増加と関係があるのかは、想像はつかないんですが、そういったこともあるのかとは思いますが。話しは変わりますが、平成18年に自殺対策基本法ができました。平成18年頃というのは、自殺される方の数が全国的に3万人を超えていました。で、それまで個人的な問題ということで捉えられていた自殺が、先進国の中では自殺の死亡率で、日本が非常に、今でも高いんですが、そういった状況にありましたので、自殺対策に取り組むという計画をすべての市町村で作って、県でもつくり、国を挙げて運動を進めてきた結果、全国的には今、2万人ぐらいです。それでも2万人ですが、3万から2万に下がってきたということで、長期的には、こうした取り組みをすることの効果が出ているということは言えると思います。全国的にはそういう流れですが、本市のレベルで何か大きな変化があったかということをお問われたときは、ちょっと分析が難しいと事務局としては考えます。また、先ほど令和6年の状況というお話があったんですが、令和6年における自殺者数の暫定値が発表されていて、田辺市の暫定値は10人だそうです。令和5年に23人と増加していますが、暫定値として10人となっています。

○事務局

1点補足をさせていただきます。先ほど令和5年の自殺者数の増加をコロナ禍と結びつけるような発言をしました。本市で自殺者数が比較的低位で推移しているのが令和元年から4年までですが、令和元年は、まだコロナによる影響を受けていない時期でした。ですので、コロナ禍の関係で自殺者数が減少、増加したというのは、本市の状況を分析する上では、すこし違うのかという気がしましたので、発言させていただきました。

●B委員

今年から町内会の役員になりまして、今まで、極力避けていたのになってしまいました。大変です。実はこの前、防災訓練をしたんです。で、何を言いたいかというと、すごく楽しかったんですよ、防災訓練そのものが、カレーを作ったり、地域の人と話をしたり、そこに子供たちがいて。行政の施策として、「自殺を止めよう」ということで今やっていると思うんですけど、やっぱり地域力というか、死に向かう力ってものすごくでかいですから、それを抑える力っていうのは、本当は、地域の中にあるんじゃないかと思ったんです。地域の中に健康的な人が多いと思うのですが、こういう力があるのだったら、子供も含めてですけど、何らかの死に向かう力を、押し戻す、引きとどめる力に変わるのかな。ということをお新たに思いました。だから、政策なんかは個々にバラバラなんですけども。やっぱり地域づくりということも、自殺防止と連動するような方針というのが本当の姿じゃないかな。町内会も人がどんどん入らなくなっているし辞めたい人もいるんですけど、改めて、やっぱりいろんな力を地域が持っているというのを、この間感じさせていただいたんで、それを何とか、繋がりという言葉も含めてですけど。なんか田辺らしいというか、地域の再生も含めた、大きな、何か、防止策っていうのが、大事じゃないかと思いました。今まで全然知らなかった人たちどうして、普通に話ができるようになって、この前も一人出てきていない人がいたときに、「倒れてるんちゃうか」と、みんなで見に行っただけなんです。ただ、寝てただけでしたが、そう

いうことが、ものすごく大事なんだから、やっぱり地域力、それが本当にいろんな面で、押し留める力があるんじゃないかなというふうに思いました。

●G委員

町内会をやっておりますけど、人が少ないので、どの町内会も、もう止めなあかんという状態になっているぐらいです。お祭りなんかも、コロナがあつてから、特に葬式なんかも、簡素にしようとなつて、個人で済ませ、誰も知らないということでもいいのかって思うときもあります。確かに個人で問題を抱えた人は多いですが、どう地域で見守れるか。役員をしたら、どうしても耳に、民生委員・児童委員もしていますので、情報が入ってきますが、以前は、地域のおばちゃんが、いろんな人が生活している場へ、どこどこ入って行って、僕が小さい頃は、縁側に出て夕涼みというか、おしゃべりってというか、そういうのも見ないので。祭で何とかしたらええわって、テレビなんかでも取り上げてくれりゃいいんだけど、もう人口が、全部山手に移ってしまう。小学校で今度、1年生に入ってくるのが10人で、僕らのときには、40人学級で6クラス。そんな学校でさえ、もう次に入ってくる子が10人で、あと何年かしたら複式学級になるかもっていうような、だから、地域の地域力っていうと今、70代の人が高まりとしてあつて、その人がもう抜けてしまったら、どうするやろうって思うのが現実です、僕も何年も町内会長していますが、替わりがないというか、そういう塊がないというか、町内会が、老人会というか、敬老会の人が多いという現実が、ひしひしと感じられます。ある会長さんが「生涯現役で町内会長をする」と言われた、そういう時代になってしまったということは認識しています。先ほどの意見にあつた全体で受けとめる力というのは、やっぱり町内会の地域力しかないとは思ったんですが、なかなか人が寄って来ないというのが現実です。

●会長

地域力というか、何らかの課題があつて運動をしなくてはならないときでは、皆さんそれに向かつて一丸となつてやりますが、つつい日々の運営の部分については例えば、広報配りであるとか、回覧版とか、ごみの収集であるとか、日常のそういった活動については非常に出不足になったりします。これは町内会だけではなく、いろんな団体で、減少していると。「会議や総会に出ていたら役を持たされるので行きたくない。」というような感じですね。特に総会には出てこなくなる。というような傾向があるんですが、我々障害者団体の間でもそうなんですけど、政策的な課題があつたり、「制度作るんや」みたいな形で運動をしてるときは人が増えてくるんですね。だけど日々のレクリエーションなんかは違う感じですよ。最終的に地域力であるとか人間力であるとかの部分によって前向きに物事を考えていくことで自殺も減っていく。また、そういう対策にもなるかと思うんですが、何とかこう、地域力を復活するような方策を考えていかないと駄目だと思います。地域力を上げて、人間力を上げていくような部分で、それで人を助けるというか。そういう部分を何らかどこかに盛り込んでもらえたらなんですけど。よろしいですか。

●A委員

今回、孤独・孤立対策というのが1つのキーワードかなと思って、載せていただいたのがスタート地点かなと思っています。これはいわゆるその、セーフティーネットを築いていくというところで、今人口減少なんで、今まで町内会で地域力を賄っていたけども、いろんな

問題や会費の面でちょっと不公平感が出たりとか、いろいろな不満も出ている中で、例えば会費制を設けない子供食堂であったりとか、先日ある地域では防災まつりを企画していたり、夏祭りとかがあるんですね。そういったところ、子供が集うところに人が集うということですね、自由に入れるところ、その居場所の方も、前回申した通り、作っていかなあかんって言う、これは1つのセーフティーネットですよ。もう1つは、やっぱり来られない方も現実にはいますんで、その方をアウトリーチで訪問して、助けていく役割もいますし、もう1つ心配なのが、その最後の相談窓口の最後のところ、当事者にとっては大変な勇気を持って電話するわけです。このときに、どの領域かわからないと、行政であるわけなんですけど、たらい回しされるって言うところが、いやもう本当に現実の話ですよ。この人にとったら生きるか死ぬかの話しときに、たらい回しされるのが一番辛くて、それだったらもうやめた方がということで諦めてしまうんじゃないかなと思うんですね。そういったときに、バラバラじゃなくて1つ、たとえバラバラでも専門窓口として、プラットフォーム的な総合窓口で、この件はここへ電話したらいいよっていうアドバイスをいただけるような、総合相談の支援窓口っていうのは、必要じゃないかなあというふうには思っております。これは市に対しての要望です。

●会長

今言われたようにたらい回しされることのないように、少なくとも、ここに書かれている専門的な窓口で電話がかかってきたときに、「担当者がいない」といった対応のないように、何らかの対応、受けとめができるようにしていただきたいです。

●H委員

人と人とのつながりがとても大切だと思います。自殺を考えるとというの「うつ」の状態になっていると思います。「うつ」になっていなかったら少々困りごとがあっても、自殺には至らなかつたかもわかりません。そういう状態になるまでには、かなりの時間がかかっていると思います。小さい頃からのこともあるので、笑いのある楽しい家庭にすることから始める必要があると思います。笑いの効果は大変大きく、副作用もありません。そういった取り組みが大切だと思います。

●I委員

先ほど言われた「うつ」になるというのは、いろいろ家庭環境の問題が一番多く、職場もそうですが、何年もかかってるんで、これを良くしていくには、かなり時間が必要ということで、即決して自殺に結びつかないために、一番は時間稼ぎが必要だと思います。私も中学のときに家庭環境が悪かったもので、ずっと、部活の方に逃げていたというか、家に居らないようにするようにしていたんですが、中三の夏になったら、クラブも引退するんで、そうすると家に居ないといけなくなって、苦しくなって、それで、親に言って塾に入れてもらって、そのあとは塾に逃げ出し、その半年ぐらいの間に2年分、高1ぐらいまでを終わらせるぐらいの勢いで勉強しました。家に居らずに逃げられたんです。その時にちょっと「うつ」になりかけてたんですけれども。そういうふうなことで、逃げられたということがあって、だから、自殺に向かう人は、そういう時間稼ぎができていないことがあると思うので、そういうときに環境から逃げるというか、その間に時間をかけてできるような、レクリエーションのような、そういうのが必要かなと思います。

● J 委員

先日、県の話し合いの場において、生活困窮の相談が来たときに、その情報が共有できるプラットフォームの仕組みが橋本市で出来ているという話を聞きましたので、わかる範囲で情報を調べてみます。他には、子供間の SNS を通じてのいじめの話なども耳にしますが、いざ自分の子供が、小学校中学校、いや中学校ぐらいのときに、ラインを「見せてよ」って言っても見せてもらわれへんやろうし。SNS の中で、つらい思いをしている状況を、親であってもリアルタイムでキャッチすることが、めっちゃめっちゃ難しいと思います。何らかの形で教育の延長上で、SNS についての取り組みというの、ずっとされているという状況はあると思いますが、実際、狡猾なやり口になったら、「これわからんなあ」というのが実感です。その辺のところを大人が、大人の知恵で、アプローチできる部分がないのかなあと常々考えるんですが、あまり「ひらめかないなあ」と、もやもやしているという、何かこういう SNS を通じた子供さんのいじめのところへ、なんかこう、テクノロジーも含めて、積極的に関わっていける方法があったらなと思ったりしています。

● K 委員

窓口で相談員をしています。相談窓口としてパンフレットに電話番号が載っているので、アンテナを張って、先ほど意見として出されたような、最後の砦という気持ちで、相談を受けられたらと思っています。「たらいまわし」がないようにということも意識しながら思っていますが、相談員が 8 名しかいないことと、現場を回っている相談員が多いことで、いきなり電話がかかってきたときに、ゆっくり話を聞けるかということもそうもいかないところもあり、これについては、いろいろ考えさせられることがあります。他の窓口は市役所の中にあり、私たちは市民総合センターに残っているので、近くに、私たちの相談機関以外にも相談できる場所があったらなあとも思いますが、そこは自分たちで抱え込まないように思っております。ですので、こうして自殺対策計画の策定に委員として参加させていただいているので、今後そういう相談が来たときに、皆さんに、教えとか意見とかをいただけたらなあと思います。また相談をさせていただきます。

● L 委員

前回の検討を含め、新たな計画として進めることには問題はないと思ひまして、特段の意見はありませんが、いろんな方々、いろんな立場の人が、お互いのことを考える社会を作ることが大切だと思います。

● 会長

警察の 110 番で、例えば、「今から自殺したい」とか「自殺する」とかそういう緊急的な電話は、119 番もそうなんですが、そういった電話というのはあるんですか。

● L 委員

取り扱う事案としてはあります。110 番がかかってきて、和歌山県内、田辺署管内の方もありますし、他府県警察の 110 番指令本部にかかって、「友達がこういう状況です」とか、「私こうしたいな」ということがあって、それが飛び越え 110 番どうして繋がりますので、即座に和歌山の方へ下りてきて、それがまた署に指令され、田辺のここの現場、家で、家の方がこういうふうな内容を言っているんで、「私が聞いたんだけどどうしたらいいだろ

う」というようなことをおっしゃる方もいらっしゃいますので、その時は「今そこの命を救う」ということで、署の警察官、地域の駐在などが駆け付け、応急の措置や、何かできることがないのか対応させていただくことがございます。そして、警察以外の考えられる範囲での調整、病院や救急などへ、現場で対応しているのが現状です。

●会長

おそらく連携を取っていく必要があるケースというのは多分にあると思います。今日この場には、様々な分野の皆さんが参加されていますので、いろんな意見が出てきます。やはりこういうことが地域力であるし、また、人の力であるんだと思うので、できるだけ皆さんが連携をとりながら、1人でも自殺者がなくなくなるように、また、障害のある人たちが困らないように、この会は障害者施策推進協議会ですので、そうして安心して暮らせるまちにしていきたいと思っています。

●M委員

地域の子供たちと寄り添う支え合うという経験ですが、手話サークルの集まりの子供たちの中で、顔を見て、何かくらいイメージの子がいましたので、その親に何かあるのかなと思ひ心配したことがありました。その子供が、手話を勉強して明るくなったこともあるんで、またやりたいと家に帰って頼まれていることを、ちょっと気になったので、いちど両親に会ってみようかなとも思いました。地域の民生委員にお願いして見守りをしようと、子どもは手話を勉強することだけを楽しみにしていて、それがだんだん成長しているあいだに、全く性格が変わったのでよかったねっていうことを、今も思っています。これから皆さんも、寄り添い支え合うことという、何かの意見もありますけど。何かあったときには、気配り目配りすることがあるんで、そういうことも経験の1つなんですけど。今思ったら、やっぱり、不安もあるけども、こういった子供たちの成長は、外で運動することも、もうあまりなくなって、ほとんどゲームとかで、そういう心配もされているんで、そのあたりまた皆さんにも声掛け、支え合うということをお願いしたいなと思っています。

●N委員

特にないです、ありません。

●O委員

今までの皆さんの話を聞きながら、ちょっと思ったんですけど、我々昭和の時代は結構、周りの大人も子供たちに目配り、か、どうなのかわからないけど、どここの誰の何とかの子供やってというのは、近所のおじいちゃん、おばあちゃん、みんながわかってくれていて、悪いことをしたら叱ってくれたりとかで、そういう昭和の時代だったんですが、今の時代で見たら、子供のいじめも陰湿でわかりにくいという話もあったように、確かに陰湿で、わかりにくい部分がものすごくあって、それで子供らが例えば悩んだとしても、それを、言う術がなくて、はけ口がない。そこで、精神的に、だんだんだんだん困ってしまう。で、学校に行けなくなる。でも、でもその1歩を踏み出そうにも出せない。全国的に言われているように、とにかく我々の時代とは違ういろんなものが溢れているので、その辺が、原因とは言えないものの、その使い方によって変わるっていうのを、我々は感じ取っていくべき時代かなと思います。最近いろんな所で話をする機会があったときに、何を言おうかと、悩みな

がら話していますが、でも、それは我々の時代の感覚ではない、今の感覚を我々も身に付けなければ子供の思うこともわからないし、周りのことも見えてこない。学校の先生も、結構うつになる方が多かったり、子供の発達障害に気が付かなかつたりという現状がある中で、先生方が苦勞されているのも何となくわかるし、でもその根本が何であるかっていう、そこに、どんなにやって気が付くべきかということ、我々大人も考えていかなければならない。そういう時代だということをつくづく感じています。自殺の話もそうですし、例えば、自分がどれだけ悩んだとして、それを打ち明ける知人もなければ術もないと、どこにどういふふうに話を持っていけるかしらもわからない。誰かが気づけばいいけど、気が付かない。わかってももらえない。その中でそういうふうにはせざるをえない、追い込まれていくっていうのを気づくというのは難しいことですが、ちょっと考えを変えて、目線を変えて、何か見ていくっていう必要が、今はもう、そういう時代にもなってきたのかなと最近思っています。

●P委員

自殺の原因の中に経済問題や失業問題もございました。ハローワークの窓口にお越しいただくお客様でも、失業期間が長くなり非常にしんどいというあたりの相談もございます。もちろん窓口で相談等させていただいて、激励などもさせていただくんですが、非常にしんどくなっている場合や、うつ病的な部分になってくるなど、緊急の場合でしたら、ご本人様の了解をいただいて、こちらから地方自治体の福祉の窓口へ電話をさせてもらって地方自治体の担当の方につなぐ場合もございます。一旦福祉の方で落ち着かれたら、またハローワークでの仕事の相談をさせていただくようなこともございます。あまりお役に立てることは少ないかもわかりませんが、各機関と連携を取らせていただいて、ご案内させていただきますので、またそのときはよろしくお願ひします。それと、私も家に帰りましたら、一住民ですが、先ほどからお話がありましたように、私も昭和世代なんですが、本当に子供のころは周りに子供が多かったんですけど、本当に今、うちの町内も1人ぐらいしか小学生がおりません。その中でやっぱり地域だけでっていうのは難しいですし、かといって、そこに頼るところも、なかなかないところなんで、それぞれ少しずつ力を出して、行政とか民生委員さんとか、地域の方とかが合わせて連携を取りながら、対応していきたいなと思います。もし今度、町内会の役員等、機会があればちょっと頑張ってみようかなと思っています。

●Q委員

SOSの出し方に関する教育の実践という項目の中にある、「いのちの授業の実施」これはすごく大切な取り組みです。当校(県立校)でも、地域の助産師の方に来ていただいて、実際に「命ってすごく尊いものだよ」と話をすると、生徒たちに、すごくすつと入っていきます。情報教育の充実ということも、今回重点施策にされているかと思いますが、日々情報がどんどん上がり、SNSも本当に毎年巧妙になっていくので、職員についての研修もいりますし、子供についても情報リテラシーの指導もいるので、この辺りもしっかり現場の方で啓発していただいたらと思います。外部講師の方のお話ってものすごくわかりやすく、現場の教師がすることプラス外部の講師とで、すごく成果が上がってきますので、この辺りしっかりと活用できていけるようになればいいなと思っています。

●R委員

今回重点施策に、孤独・孤立を含む支援が位置付けられましたが、これはとても重要なこ

とと考えています。私の知っている方で、仕事で行き詰まって、ひきこもった方がいます。家族、奥さんと子供が1人であったでしょうか、家族や子供が話し掛けても、返事することもできないくらい重症な方で、かといって自分のことを放っておかれない、そばにいて欲しい、そしてその日あったことを話しかけてほしいと、自分は返事することはできないがそばにいてほしい。その家族の方がずっと寄り添い繋がりを保つことで、徐々にではあるんですが回復して、今はもう社会復帰されています。そういったこともあるんで、家族がいて、支える人がいるとか、そういう人がいる方については時間かかるかもしれませんが、いずれは社会復帰できるような状態にもなるかと思うんですけども。そういった方がいない方は、孤独・孤立となって参りますんで、そういった方の支援がとても重要であることから、今回の計画に重点施策の中に位置付けられるとはとても重要なことであると考えています。

議題(1)に対する質疑は以上で終了し、続いて、議題(2)計画案の承認について、「田辺市第2期自殺対策計画(案)」を承認することについて諮ったところ、全会一致により承認された。続いて、議題(3)その他について、次の意見と、事務局から今後の予定についての説明があった。

●M委員

いつも事前に資料を送っていただいておりますが、手話通訳者の方に届くのが遅いと聞いたことがありますので、早く届くようにお願いします。

○事務局

本日ご承認いただきました計画(案)については、再度、誤字等を確認したうえで、目次の前に市長の挨拶を加えるとともに、巻末にパンフレット同様の相談窓口の情報を加えます。その後、決裁を得たのち市ホームページ掲載の方法で公表いたしますが、委員の皆様には冊子製本したものを送付させていただきます。

●会長

世界自閉症啓発デーのパンフレットをお配りしています。毎年4月2日が国連の定めた世界自閉症啓発デーでして、世界中の名所などがブルーライトでライトアップされます。今のところ県内では和歌山市だけだったんですが、今年は田辺市でも新庁舎で文字のところがブルーにライトアップされるそうです。先日は身体障害者連盟の関係でもライトアップがあったんですね。そういうことで、お知りおきいただければと思います。全世界のランドマークで実施されており、万里の長城やオペラハウス、ナイアガラの滝、スカイツリー、東京タワーなどそういったところも全部ブルーライトになります。

他に質疑なく、会長が閉会の旨を宣言し閉会となる。